

さいせいおたる



社会福祉法人 恩賜財団済生会支部北海道

済生会小樽病院

〒047-0008 北海道小樽市築港10番1号

TEL 0134-25-4321(代) FAX 0134-25-2888

URL <http://www.saiseikai-otaru.jp/>

発行 近藤真章 編集 広報委員会



冬の夜景小樽

撮影 臨床検査室 一條 周一 (写真部)

目次

- 02 コラム 乳がんの治療と検診
- 03 コラム インフルエンザ・ノロウイルス検査について
- 04 済生会小樽病院「認知症ケアチーム」の紹介
- 05 トピックス
- 06 平成28年度小樽市南部地域包括支援センター
地域版介護予防フェア
- 07 済生会フェスタ
- 08 救急対応懇談会を開催しました ほか

理念

新たな地域医療の創造と社会貢献

患者中心、患者主体の医療

人を大切にする組織

乳がんの治療と検診

コラム

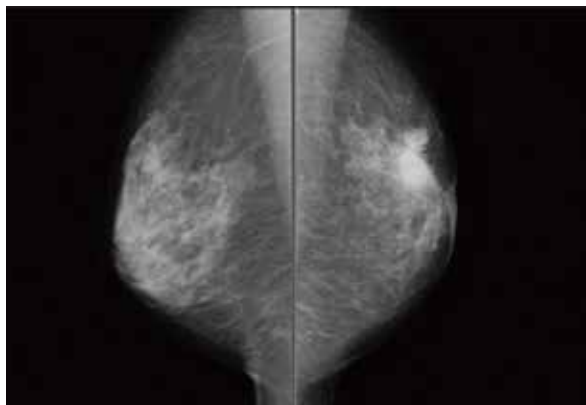
外科医師 島 宏彰



乳がんに対する診療の質の向上は日進月歩であり、近年では早期乳がんの中でも非浸潤性乳管がんでは根治が可能であると言える時代になりました。当科ではこの時代背景から根治をめざすために最適な治療、かつ、過剰な治療を最小限にした治療を実践しています。

1. 乳がんの検診

乳がんの早期発見・早期治療は非常に重要で、不幸にも乳がんを発症した場合に早期で発見されたか、進行していたかでその後の治療計画に大きく関わります。日本では40歳代後半に発症のピークがあり、その年代は仕事や家族との関わりとのなかで重要な立ち位置にいることが多いと考えられます。早期に発見して早期に治療が開始できると生活への影響も最低限に抑えられる可能性があります。検診は乳がんの早期発見の場として大切です。マンモグラフィと超音波、触診が基本的な検査法です。



▲マンモグラフィ写真

2. 治療方法は？

局所治療として手術、放射線治療、全身治療として内分泌療法、化学療法、分子標的治療がありますがこれらを基本とした治療計画をたてていきます。

実は乳がんの中にはいくつかのタイプが存在し、タイプごとに異なる治療が勧められるため、一言で乳がんといっても様々な展開があることに注意が必要です。乳がんのタイプは生検検査（針生検やマンモトーム）あるいは手術で得られた病理組織学診断で明らかになります。したがって、これらの治療の中でも「手術」は根治をめざすための治療とその後の治療法にかかわる精密検査という二つの側面があり、標準治療の大切な柱になっています。

まだまだ伝えきれないことが多くあります。治療を受ける際に不安や疑問が複数でてきます。さらには、がんの治療がふだんの生活や金銭的な事情に及ぼす影響も気になるところではないでしょうか。現在、当院には複数の専門スタッフがおり、より快適な治療を受けられるような環境が整っています。

検診も大切ですし、しっかりとした治療も大切です。ぜひご相談ください。



▲マンモグラフィ撮影装置

インフルエンザ・ノロウイルス検査について

コラム

臨床検査技師 木谷 洋介

主に冬に猛威をふるうインフルエンザウィルス・ノロウイルス感染症ですが、検査室でどのようにして検査をしているかお話ししたいと思います。

1. インフルエンザウィルス検査

インフルエンザにかかったかどうかの判断は、ほとんどの医療機関が「迅速診断キット」を使用しています。これは、鼻やのどから摂取した粘液を調べ、ウィルスを検出するキット（イムノクロマト法）で、メーカーにより判定時間は異なりますが8～15分以内に結果を出せる優れたものです。

どのタイミングで検査をすれば良いのか…、具体的には、インフルエンザ発症後12～24時間以上経過してからが頃合いです。しかし、抗インフルエンザ薬が有効なのはインフルエンザの症状がでてから48時間以内なので、発症後2日以上経ってから検査しても、抗インフルエンザ薬の効果が低下してしまいます。症状も風邪に似ているため、見分けが付きにくいのですが、高熱が長時間続く、悪寒や関節痛の症状が出ている、周りでインフルエンザが流行していると



いった環境がある場合は、インフルエンザにかかっている可能性が高くなるので、このような場合は48時間以内に検査を受けることを、お勧めします。

2. ノロウイルス検査

ノロウイルス感染症は、主に下痢や嘔吐を症状とする病気です。特に、下痢が重症である場合は、ノロウイルス感染症である可能性が考えられます。高齢者や乳幼児、持病がある方ではノロウイルスに感染すると重症化しやすいため、入院の必要性を判断するなどの意味合いで検査をする場合があります。便から抽出したウィルスを検出するキット（イムノクロマト法）で検査時間は、約15分程度で結果が出ます。



以上がインフルエンザ・ノロウイルス検査についての説明となりますが、インフルエンザは予防が大切です。ワクチン接種・マスク、そしてノロウイルスと共通で手洗いやうがいを中心掛けましょう。



ケアチーム紹介

2016年度診療報酬改定で、2025年問題を踏まえ高齢者や認知症患者の増加を予測し、認知症ケア加算が新設されました。当院に於いても認知症患者が安心して療養できる環境を整えなければならないと考え、認知症ケアチームを立ち上げました。認知症ケアの標準化を目指し活動をしておりま

すので紹介させていただきます。

今年度、済生会では済生会看護部長会と共同し「済生会認知症支援ナース育成研修」を済生会本部（東京）にて開催しております。本研修は、認知症ケア加算2の9時間以上の研修として厚生労働省より認められました。済生会では認知症ケアの質向上と認知症ケア加算の取得に向け取り組みを行っております。

当院でも、済生会認知症支援ナース育成研修の講師を務めた副診療部長兼神経内科部長の松谷学医師を委員長に、私が副委員長となり平成28年9月より認知症ケアチームを立ち上げました。メンバーは、神経内科 松谷 学、林 貴士（認知症サポート医師）の医師2名、看護師11名（9時間以上の認知症研修受講修了者）、薬剤師2名、作業療法士1名、理学療法士1名、社会福祉士1名、医事課職員1名です。現在の活動は、認知症加算2取得に向けた算定要件の整備です。5つのワーキンググループに分かれ年内申請に向け急ピッチで準備を進めています。ワーキンググループは、①認知症ケアマニュアル（手順書、身体拘束基準、薬剤を含む）②認知症の看護計画 ③認知症診断基準（日常自立度のチェックなど算定方法）④認知症患者の退院支援 ⑤認知症研修です。平成28年11月22日には第1回認知症研修会を開催しました。対象は全職員とし、認知症の基礎と認知症ケア加算の算定要件について説明を行いました。講師は、チームメンバーの神経内科林貴士医師と医事課の堀が務めました。医師を含め多くの職員が参加し、認知症とせん妄の違い、チームで検討した薬剤マニュアルなど周知する機会となりました。認知症ケア加算2では、

全看護職員が認知症に関する研修を受講することが義務づけられています。第2回目の研修会を2月に予定しています。勤務上研修に参加できない看護師には、各病棟に配置した認知症支援ナースが研修を行う事になっています。認知症ケアの標準化を図り、認知症患者が安心して療養できる環境を整えることをチームの目標としています。その中心的役割を看護師が担ってくれることと期待しています。

平成28年度 済生会小樽病院 認知症ケアチーム 主催

第1回 認知症ケアチーム研修会



「認知症ケア加算について」

医事課 堀 博一さん

「【基礎編】認知症の基礎知識」

神経内科 林 貴士 先生

日時：平成28年11月22日（火）18時～18時45分

場所：済生会小樽病院 講堂1・2

対象：当院全職員

お問合せ：認知症ケアチーム研修会WG 白井（リハビリテーション室）

今後のチームの活動としては、認知症回診やケースカンファレンスを開催し、他職種共同で教育・指導を行いながら認知症ケアの質向上を図り、全職員が認知症患者へ尊厳ある対応ができる事を目標としています。手探り状態ではありますが、できることから一つずつ取り組んでいきたいと考えています。



トピックス

市民健康セミナーを開催しました

今年度の市民健康セミナーは骨粗鬆症「寝たきりを防いで健康に暮らすために～高齢者の骨折予防～」をテーマに全3回シリーズで8月、10月、11月に開催いたしました。

シリーズを通して当院整形外科織田崇部長による「骨粗鬆症はなぜ治療するのか」「骨が折れる人・折れない人」「骨が折れない為にできること」の各講演を行い、シリーズ1回は管理栄養士、2回は理学療法士、3回は薬剤師による骨粗鬆症についての講演も行いました。

講演後、参加者からは通院時の不安点や栄養面の疑問点など様々な質問があり、骨粗鬆症に対する関心の高さが伺えました。当院では市民の方々が健康により関心を持っていただく為に、このようなセミナーを今後も継続して開催していきたいと思っています。



トピックス

平成28年度日本損害保険協会
寄付事業にて済生会小樽病院では
血液ガス測定装置を整備しました。

血液ガス測定装置

ABL800FLEXシステム
(825GLバージョン)

【平成28年10月26日導入】

本機器は自動車事故被害者救済の
ために日本損害保険協会の寄付金を受けて整備
いたしました。



平成28年度小樽市南部地域包括 支援センター地域版介護予防フェア開催!!

レポート

平成28年10月13日（木）、済生会小樽病院講堂で地域版介護予防フェアが開催されました。今年、北海道は地震や台風など大きな災害に見舞われることが多い年でした。災害発生時は、慌ててしまう、焦り等で平常心を保てなくなる、また災害状況が深刻な場合、家屋を失い避難所での生活を余儀なくされ、不安やストレス、疲労により不眠等で体調を崩してしまう危険性が高まります。



今回のフェアでは災害発生時に、備えあれば憂い無し、いざという時に慌てずに対応出来るように、また災害時の体調不良を予防するためにというテーマで開催しました。

第1部では、小樽市消防署職員の方に災害時の避難のポイントや非常時の持ち出し品など、日ごろの災害に対する心掛

けや初動の大切さを講話して頂きました。

後半では、小樽市南部地域包括支援センターの職員による避難所生活で発生しやすいエコノミー症候群の予防体操を紹介・実演しました。この際、参加者にも各々が身体を動かして予防体操を体験して頂きました。

また、「笑い」が体内のナチュラルキラー細胞を活性化し、免疫力を向上するということが最近の研究で明らかにされていることもあり、第2部では札幌で活躍する落語家の鳳亭老射手（ほうていおいて）氏による古典落語のファンタジックな作品「もと犬」を披露。会場は笑いの渦に包まれていました。



済生会フェスタ in小樽 開催

レポート

9月25日、晴天の中今年も済生会健康フェスタin小樽を開催し、約900名の方にご来場いただきました。病院体験ツアー・健康測定会・チャリティバザー・アトラクションなど各コーナー10時の開始とともに大盛況となり、小樽のゆるキャラ「運がっば」の登場には子供たちも大喜びでした。屋外イベント小樽市消防本部の緊急車両試乗会、小樽あんかけ焼きそば親

衛隊による焼きそばコーナーも長蛇の列でした。午後1時から当院整形外科医師による健康セミナー、続いて元サッカー日本代表の吉原宏太さんによる特別講演を開催、笑いの絶えない楽しい講演会となりました。今後も「地域で生きる済生会」として、医療・福祉・介護のトータルサービスで健康と安心の街づくりに貢献していきたく思っております。



救急対応懇談会を開催しました

平成28年10月25日(火)18:00から小樽市消防本部と当院の救急対策委員会とが一同に会し救急対応についての懇談会を開催いたしました。

はじめに当院 副院長 和田医師より「大腿骨頸部骨折治療の実際」と題し「急性期から回復期リハビリテーションまでの一貫した医療が患者さんの予後にも重要である」との講演をさせていただきました。続いて神経内科の津田医師からは「救急現場における意識障害患者の対応について」と題し講演させていただきました。

その後は意見交換を行い救急隊からの質疑では「神経内科の受入れ範囲について」の質問があり、神経内科医師からは「脳出血・くも膜下出血など明らかな脳外科疾患以外で判断に迷うときはご相談

下さい。」との回答がありました。

済生会小樽病院では今後も小樽市消防本部との連携をより強化し懇談会を通じ小樽市における救急診療の円滑な運営に努めて参ります。



交通のご案内



中央バスをご利用の場合

- 「各種系統 ばるて築港線」にて済生会小樽病院前下車し徒歩1分
- 「系統2番・3番 本線（桜町～高島3丁目）・（新光2丁目～手宮）」
- 「系統6番 望洋台線（小樽駅～望洋台シャングツェ下）」にて小樽築港で下車し徒歩10～15分
- 「高速バス おたる・よいち・ニセコ・いわない号」潮見台下車徒歩10分

JRをご利用の場合

- JR小樽築港駅から徒歩10～15分

施設認定

- 日本内科学会認定医制度教育関連病院
- 日本消化器病学会専門医認定施設
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本甲状腺学会認定専門医施設
- 日本神経学会専門医教育施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本整形外科学会専門医研修施設
- 日本手外科学会基幹研修施設
- 日本泌尿器科学会専門医基幹教育施設
- JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
- JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士実地修練施設
- JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設

～ 院 是 ～

恕

じょ
(おもいやり)

～ 専門外来の受診について ～

当院の専門外来は、「他医療機関の紹介状」及び当院の一般外来からの紹介が必要です。また、専門外来によっては「完全予約制」となりますのでご注意ください。

詳細につきましては、各科外来もしくは、下記までお問い合わせください。

予約センター専用ダイヤル 0120-489-275 (病院診療日の平日14:00～16:00)